

**学校法人千代田学園
大阪千代田短期大学
機関別評価結果**

平成 20 年 3 月 19 日

財団法人短期大学基準協会

大阪千代田短期大学の概要

設置者	学校法人 千代田学園
理事長名	吉田 博司
学長名	半田 秀男
A L O	稲葉 公一
開設年月日	昭和40年4月1日
所在地	大阪府河内長野市小山田町1685番地

設置学科および入学定員(募集停止を除く)

学科	専攻	入学定員
幼児教育科		150
総合コミュニケーション学科		100
	合計	250

専攻科および入学定員(募集停止を除く)

学科	専攻	入学定員
専攻科	幼児教育専攻	30
	合計	30

通信教育および入学定員(募集停止を除く)

なし

機関別評価結果

大阪千代田短期大学は、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていることから、平成 20 年 3 月 19 日付で適格と認める。

機関別評価結果の事由

1. 総評

平成 18 年 6 月 19 日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現および教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次の通りである。

弘法大師の興学精神に則り、「教養あり、有為な社会人として創造的な生活をなし得る人材を育成する」という人間教育を重視し、受け継がれている。建学の精神に沿った教育理念・教育目標も各学科で明確であり、建学の理念、それに基づく教育目標などは学生、教職員に対し、様々な場面で示されている。これらについて、学生に対しては入学式、オリエンテーション、ゼミナールなどで周知するよう努めており、教職員に対しては学科会議や学科研究会において、非常勤講師については年度当初に学長、学科長などから詳細な説明を行い、理解、認識を共有するよう努めている。

カリキュラム構成はおおむね体系的に組み立てられている。特に、幼児教育科および総合コミュニケーション学科のケアコースは厚生労働省の指定科目と整合性をもたせながら体系的に編成されている。また学生の多様なニーズに応えられるような各種免許・資格の取得が可能になっている。ファカルティ・ディベロップメント（FD）研修会、学科研究会が定期的で開催され、授業内容の点検と教員間の意識の合意がなされ、また、学生の満足度調査の集計が教員にフィードバックされるなど授業改善の意欲が感じられる。

教員組織は、短期大学設置基準を充足しており、年齢構成上のバランスも適切である。各教員は、多様な学生の対応のために補習授業や個人指導に積極的に取り組んでおり、意欲的である。また、教育環境も各実習室、大・中・小の各教室、演習室など充分用意されている。図書館の蔵書数は大学の歴史からも充実しており、学生利用に関して種々の工夫を凝らしている。学内 LAN は整備され、体育館、運動場などの整備は万全と見受けられた。

生涯学習センターを常設して様々なジャンルの講座を長期にわたって開設して地域住民の学習意欲に応えるとともに、夏季カレッジや専門職を対象とする公開講座、ボランティア交流・連絡会の開催など地域社会で評価される大学作りに取り組んでいる。

理事会が学校法人の運営責任主体であることが確立し、理事長、学長、副学長のコミュニケーションも良好である。理事長は、隔週学内常勤理事会、法人本部会議を通

して指導力を発揮している。また、理事長は学科会議や各種委員会まで可能な限り参加することによって現状認識を図るとともに、教職員と意思の疎通を図っている。理事会、評議員会も適切に開催されている。監事もその職務を適切に果たしている。事務組織、事務規程は整備され、職員は学生支援の観点から職務を遂行しているように見受けられる。また、教員との関係も各種委員会に必ず事務職員を配置していることなどから意思疎通は良好のように感じられた。

財務については、長期財務計画（平成 11～20 年）が策定済みであり、現在のところ計画に沿って推移している。財務体質は過去 3 年間の消費支出に対して帰属収入超過であることから健全である。

改革・改善について、幼児教育科に保育士養成の機能を付与するとともに入学定員の増員を実施、英米語学科においては総合コミュニケーション学科への改組と多様な資格取得機会の提供、介護士養成施設としての認可の取得など時代のニーズや少子化社会への対応のために改革・改善の努力を行ってきている。

2. 三つの意見

(1) 特に優れた試みと評価できる事項

評価領域Ⅱ 教育の内容

- 学生の教育にあたり、学生の理解の程度によって、工夫を凝らした独自のユニークなグループ化を行い、個人指導を含めた細かな指導体制を確立している。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

- 就職担当職員による卒業生就職先への訪問ヒアリングや卒業生への往復はがきによる実態調査など、学生の卒業後評価に積極的に取り組んでいる。

評価領域Ⅴ 学生支援

- コンピュータスキル教育に関して学生の資格取得のために専門学校と提携してバックアップしている。

評価領域Ⅶ 社会的活動

- 学内に生涯学習センターを常設して、地域の人々の学習ニーズに応じて教養、趣味、技能の向上、資格取得など、それぞれのジャンルにおいて種々の講座を開設して、多くの参加者のもとに長期間にわたって実施している。

(2) 向上・充実のための課題

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

- 弘法大師の興学の精神を源とする建学の精神、それに基づく教育理念、教育目標・目的は確立していると理解できるが、広く在学生、高校生やその保護者、地域社会に周知されているかという点と充分とはいえない。建学の理念・教育理念、教育

目標・目的を簡潔明瞭に明文化し、学生や地域社会に周知されるよう努めることが望まれる。これは、学生が学習するうえで明確な目標をもたせるためにも必要かと考える。

評価領域Ⅱ 教育の内容

- 全学共通科目群において幼児教育科と総合コミュニケーション学科で開講科目が異なっており、幼児教育科の配置科目に工夫を要する。建学の理念に謳われている人間教育の充実のためにも全学共通科目を統一することが望ましい。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- 総合コミュニケーション学科に「海外研修科目Ⅰ」と「海外研修科目Ⅱ」が学則上配置されているが、直近 3 年間実施されておらず、講義要綱にも記載されていない。同科目を削除するなり、何らかの措置を求めたい。

評価領域Ⅴ 学生支援

- 学生募集に当たって、募集要項に選抜ごとの募集定員を明記することが望まれる。

評価領域Ⅵ 研究

- 多様な学生への対応、教育目的の達成のため個々の教員は教育活動に情熱的であるが、大学の役割は教育と研究に資することであり、この点をいま一度 FD 委員会などで議論し、特に学長の指導性を発揮することによって、研究の活性化に努力されることが望まれる。

評価領域Ⅷ 管理運営

- 学校法人を含め学内諸規程の見直しなど、各種規程に関する検討が必要と思われる。

(3) 早急に改善を要すると判断される事項

なし

3. 領域別評価結果

	評価領域	評価結果
評価領域Ⅰ	建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標	合
評価領域Ⅱ	教育の内容	合
評価領域Ⅲ	教育の実施体制	合
評価領域Ⅳ	教育目標の達成度と教育の効果	合
評価領域Ⅴ	学生支援	合
評価領域Ⅵ	研究	合
評価領域Ⅶ	社会的活動	合
評価領域Ⅷ	管理運営	合
評価領域Ⅸ	財務	合
評価領域Ⅹ	改革・改善	合

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

創立者の真言宗導師が宗祖弘法大師の「興学精神」の具現化として昭和25年に創立した学園である。当該短期大学の設立は昭和40年であり、弘法大師の興学精神に則り、「教養あり、有為な社会人として創造的な生活をなし得る人材を育成する」という人間教育を重視し、開学当初からの幼児教育が現在まで受け継がれている。また、「総合コミュニケーション学科」においてもケアコースを設置するなど人間尊重という建学の精神が受け継がれている。建学の精神に沿った教育理念・教育目標も各学科で明確であり、学生、教職員に対する建学の理念、それに基づく教育目標などは様々な場面で示されている。

伝統ある学園の建学精神に基づく教育理念などは確立されていると理解するが、教育理念・教育目標・教育目的は学生便覧や講義要綱、短期大学案内用パンフレットなどに簡潔に明示されておらず、在学生、高校生、また地域に周知されているかという点と充分といえない。学生便覧、学生募集パンフレット、ウェブサイトなどに積極的にアピールすることが望まれる。

評価領域Ⅱ 教育の内容

カリキュラム構成はおおむね体系的に組み立てられている。特に、幼児教育科および総合コミュニケーション学科のケアコースは厚生労働省の指定科目と整合性をもたせながら体系的に編成されている。総合コミュニケーション学科においては多種類の資格取得が可能となっており、多様な価値観を有する学生の学習意欲を喚起するうえで工夫が見られるが、学科の教育理念がダイレクトに反映されているとは言い難い。

講義要綱が作成され、授業内容、授業計画、評価方法が明示されている。学生による授業評価、FD研修会、公開授業が実施され、学生の満足度調査の結果が教員にフィ

ードバックされるなど授業内容や教育方法を改善する努力がみられる。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

教員組織は、短期大学設置基準を充足しており、年齢構成上のバランスも適切である。各教員は、多様な学生への対応のために補習授業や個人指導に積極的に取り組んでおり、意欲的である。また、教育環境も各実習室、大・中・小の各教室、演習室など充分用意されている。

図書館の蔵書数は大学の歴史からも充実しており、学生利用に関して種々の工夫を凝らしている。学内 LAN は整備され、体育館、運動場などの整備は万全と見受けられた。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

単位認定の方法はおおむね適切であるが、成績評価に一部バラツキが見られる。総合コミュニケーション学科では履修辞退の多い教科目が目につくが、これは当該学科にあって提供資格の多さに起因すると考えられる。

多様な学生への対応として三者面談の実施、入学当初のグループ別指導、成績不振者を対象とする「(保育士、幼稚園教諭に) なり鯛塾」をグループ化しての個別指導の徹底など教育目標の達成に努力されている。卒業生の就職先への進路就職指導室職員による聞き取り調査や卒業生への往復はがきによる実態調査、さらに公開講座による卒業生へのかかわりなどを通して教育の改善に努力している。

総合コミュニケーション学科における資格取得状況から多彩な資格を提供している現状を学生のニーズに沿って整理する必要性を感じる。

評価領域Ⅴ 学生支援

学生支援は、適切かつ独自の工夫を凝らした方法で実施されている。入学後 1 ヶ月間のプレゼミを設定して短期大学で何を学ぶか、学ぶことの意義など共通の知識を全教員が指導して学生生活のスタートを支援している。また、試験前指導や再試験者への個別指導に加えて、学習支援では「なり鯛塾」、「乙女塾」、「男塾」などユニークな工夫がなされている。

音楽フェスティバル、わくわく夕食会など様々なイベントを通して学生生活をきめ細かく支援している。

食堂・購買部が充実しており、屋上庭園、休息空間などキャンパスアメニティは整備されている。

評価領域Ⅵ 研究

紀要は毎年刊行されており、教員の研究成果の発表の場は確保されている。個人研

究経費は若干少ないと思われるが、自己申告と審査によって増額の措置がとられている。教員間の研究業績にばらつきがあり、学生の教育に多くのエネルギーが割かれていることが垣間見える。科学研究費補助金などの外部資金の獲得に消極的であり、全学的な取組みが求められる。特に学長の指導力に期待したい。

評価領域Ⅶ 社会的活動

生涯学習センターが設置され、地域住民の学習ニーズに応じて教養、趣味、技能の向上、資格取得など、それぞれのジャンルにおいて種々の講座を開設して多くの参加者のもとに長期間にわたって開講していることは高く評価したい。

また、夏季市民カレッジ、ボランティア交流・連絡会の開催、市からの事業委託など地域社会との連携活動が認められる。

評価領域Ⅷ 管理運営

理事会が学校法人の運営責任主体であることは確立し、理事長、学長、副学長のコミュニケーションも良好である。理事長は、隔週学内常勤理事会、法人本部会議を通して指導力を発揮している。また、理事長は学科会議や各種委員会まで可能な限り参加することによって現状認識を図るとともに、教職員と意思の疎通を図っている。理事会、評議員会も適切に開催されている。監事もその職務を適切に果たしている。

FD、スタッフ・ディベロップメント (SD) 活動も全学的に展開されている。しかし、常勤理事会や各種委員会規程が整備されていない面もあり、早急に整備することを望む。

評価領域Ⅸ 財務

財務体質は健全であり、過去 3 年間、帰属収入は帰属支出を上回っている。今後は、現在定員を下回っている総合コミュニケーション学科の方向性の検討が望まれる。

評価領域Ⅹ 改革・改善

当該短期大学は、昭和 40 年、幼児教育科でスタートし、平成 2 年に英米語学科を増設した。この間、幼児教育科では保育士養成認定の取得や定員の変更（増員）など改組を実施してきている。英米語学科についても総合コミュニケーション学科への改組や介護福祉士養成コースの導入など時代のニーズを取入れる形で改組を実施している。したがって、改革・改善の意欲は強く感じられる。

また、今回の第三者評価についても短期大学全体で改革・改善の端緒と位置づけており、謙虚に取り組んでいる。